



本書では「手しごと職人のまち東山プロジェクト」として、十年前より独自プロジェクトを立ち上げ、六年前より東山区の助成を受けて、区内の伝統産業に携わる職人のまちな活性化を行ってきた。本年度は集大成として、これまで関わってきた職人の書籍の制作を手がけた。

取材、編集、デザインのすべてを学生が行い、プロのチームがそれを補佐する体制でプロジェクトは進行した。十年間の蓄積があり職人との信頼関係が築けていること、学生ならではの行動力と気づきの力によって、区内三十六工房への取材記事、四つの特集記事とコラム、という内容の百四十四ページの書籍が完成した。

三月には書籍販売記念イベントも学生が企画し、書籍販売に加えて、トークイベント、手しごと体験、職人の作品販売、職人工房及び登り窯を巡るツアーを実施した。同時に、書店への営業活動を開始し、京都市内を中心に有名書店での販売を行い、また本学で開催された都をどりの会場内でも特別販売を行った。

伝統産業は衰退の一途をたどっており、この書籍に掲載したいいくつかの工房でも、その代の廃業が決まっているところもある。作品は未代まで残す事は可能であるが、職人のものづくりの「技術」は一旦途絶えてしまうと復活は相当難しくなる。

プロジェクトでは職人の今を記録するとともに、書籍を手にとった人が少しでも伝統産業に興味を持つことで、職人の手助けになることを願っている。